

宇都宮市立東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定割合は87.9%と県の肯定割合を12.7ポイント上回っている。また、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定割合は63.7%で県の肯定割合を4.6ポイント上回っている。

家庭学習に力を入れ取り組んでいる成果であると考えられる。今後も家庭学習強化旬間時に自主学習ノートをギャラリーに展示したり、保護者にサインやコメントをもらったりするなど、児童が主体的・意欲的に家庭学習に取り組めるよう支援していく。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は90.9%と県の肯定割合を9.2ポイント上回っている。また、「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感じることがある。」の肯定割合は94.0%と県の肯定割合を10.1ポイント上回っている。

分かる喜びや知る楽しさを実感できるような授業を心がけることで、さらに学習の楽しさを実感し児童の学習意欲が高まるよう支援していく。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定割合が84.8%で県の肯定割合を16.3ポイント上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定割合が84.8%で県の肯定割合を16.8ポイント上回っている。

日頃から疑問に思ったことや不思議に思ったことを進んで調べたり、追究したりしようとする姿勢がうかがえる。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定割合が72.8%と県の肯定割合を9.8ポイント下回っている。日本全国の出来事や社会情勢などについて、社会科の学習やその他の教科と関連させながら意識的に児童に話題を提供することで、興味をもつ機会を増やし、世の中の出来事に目を向けるきっかけを作っていく。

●「社会の学習が好きですか」の肯定割合は51.5%と県の肯定割合を13.4ポイント下回っている。また、「社会の学習は、しょうらいのために大切だと思いますか。」の肯定割合は91.0%と、県の肯定割合を4.1ポイント下回っている。社会科の学習は実生活と結び付けて考えやすい教科である。学習内容を身近な出来事として捉えられるよう単元の導入を工夫するなど、授業の展開を工夫し、学習に取り組んでいく。

宇都宮市立東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ②個に応じた指導と協働的な学びの充実	①ICT(一人一台端末)の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫	・児童質問紙「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問における肯定回答は4年生5年生ともに県の平均を上回っている。 「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の設問における肯定回答は4年生で県の平均を下回り、5年生は県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定回答率は4年生では44.0%と県の肯定回答率を7.8ポイント下回り、5年生では54.6%と県のポイントを6.3ポイント上回っているが、若干低めである。	・児童が自信をもって自分の考えをもつことができ、発表することができるよう、協働的な授業、分かる授業を展開する。	・授業場面においてペアトークなど小刻みに共有の時間を設定したり、ICT(一人一台端末)を活用したりすることにより、主体的で協働的な学びの推進を図る。 ・「宇都宮モデル」のはっきり！じっくり！すっきり！を意識し授業を展開することで、分かる授業を目指す。